



豊かな自然に恵まれた北部丘陵地域

(3面から続く)
め、朝晩のラッシュ時の交通渋滞は慢性化しています。また、市内には路線バスの走らない空白地区があります。

そこで公共交通の担う役割を、町田市の地域特性を踏まえ、交通の利便性や機能を高め、良好な住環境を支える重要な都市機能の一つとして充実させるため、新年度から2か年計画で「交通マスタープラン」を策定します。計画では、町田市交通体系のあるべき姿を明らかにし、町田市に適した交通システムを構築するための基本方針となるものです。

ただいま述べましたバス路線の空白地区の一つに、玉川学園地区があります。この地区は、谷間を鉄道と都市計画道路が走っています。両サイドの山坂に沿って住宅地が広がり、居住者は通勤・通学・買い物などで、毎日きつい坂道の上下りを強いられています。こうした状況から地域をまわ

るコミュニケーションバスの運行を要望する声が根強くありました。そこで、新年度から地域住民組織、市、運行事業者の三者で協議会を立ち上げ、バスの運行に必要な諸条件を整え、三者協働による運行実験を「地域コミュニケーションバス運行事業」として行います。今後、この実験結果に基づき、市内の他地域展開への検討素材としていきます。

JR町田駅のエレベーターは、駅事務室奥にあるため利用しにくく、改善の要望が寄せられています。現在1日20万人を越す乗降客があり、JR側でも利用者の声に応えてエレベーター・エスカレーター等のバリアフリー整備工事を実施します。市も2005年度までの2か年事業に対し一定額の補助を行います。

つぎに、事業着手に向けて準備を進めてまいりました。南町田駅北口広場築造事業及び相原駅西口広場築造事業については、両事業

とも本年早々に事業認可を受け、新年度以降本格的な整備事業に入つてまいります。新年度は、当面両地区とも事業に必要な用地買収と物件補償を行います。なお、事業期間はいずれも2007年度までの予定です。

小山田・小野路を中心とする市街地調整区域は、多摩丘陵の豊かな緑と水辺が残る、自然環境に恵まれた地域で、町田市のみならず首都圏の貴重な自然資源として、その保全と活用について、多くの期待と関心が寄せられています。町田市は、人と自然との共生を目指し、緑と農をキーワードとしたまちづくりを進め、この地域を将来へ引き継いでいくことが重要な課題と位置づけています。そこで、新年度北部丘陵全体の自然環境の維持と活用、計画的な土地利用を図るため、地元地権者の意向を踏まえ、「北部丘陵まちづくり基本構想」を策定します。

生活を取り巻く環境問題は、人類の生存や地球の未来をも左右する大きな問題に繋がっています。また、住みよい街づくりを実現するためにも、重要な課題です。

地球温暖化の原因となる二酸化炭素や、ダイオキシン類の排出原因となる廃プラスチックの分別収集と資源化は喫緊の課題です。数年来、この件については関係者の方々にご理解をいただくための話し合いを重ねてまいりましたが、残念ながら未だ合意に達していません。しかし、今後も引き続きご理解をいただくための努力を続け、早い時期の解決を目指します。

また、日の出町の最終処分場を共同利用している多摩地域の自治体は、ごみの減量施策の一つとして、各市が歩調を合わせ、「ごみの有料化」を進めることで合意されています。既に7市が実施し、その効果も確認されている様です。さらに新年度には6市が導入を予定しています。町田市では、昨年6月に廃棄物減量等推進審議会に検討をお願いしており、今月末に答申をいただくことになっております。これは、有料化することが目的ではなく、ごみ排出量の総量削減を目指すもので、是非ご理解下さるようお願いいたします。

つぎに、成人のための学習環境の整備に関する施策として、これまで検討を重ねてまいりました(仮称)町田市立文学館は、旧公民館を再利用することで改修のための実施設計が完了しました。新年度から施設の増改築工事に取掛かり、来年末の開館を目指します。当館は展示を中心とした従来の文学館とは異なり、市民の文学活動を支える「活動する文学館」をコンセプトに、中心市街地の新たな文化拠点として、町田らしさを醸し出す要素となることが期待されます。

1998年に町田国際協会を、2000年には町田市文化振興公社を任意団体として設立し、それぞれ国際交流や芸術文化の振興という役割を担った活動を行ってまいりました。今回、市民により質の高い文化・芸術に触れ合う機会を拡大・提供し、鑑賞活動を通しての市民活動の広がりと、地域レベルの国際交流を積極的に進め、市内に居住する諸外国の人々との友好親善の絆を深め、文化の香り高い

国際感覚豊かなまちづくりを推進するため、両団体を統合し「財団法人町田市文化・国際交流財団」を設立します。財団化することにより、組織の信用力と活動の自由度が増し、運営に当たって財政基盤の安定化が期待されます。

一方、従来、図書予約や蔵書検索は、図書館のみで行われていたが、本年4月からはインターネットによるサービス提供を開始します。自宅や職場からも図書の予約・検索が可能となり、利用者の利便性が向上します。最後に、庁舎問題について申し上げます。

この問題は1990年以来、紆余曲折を辿りながら様々な議論され、現庁舎の抱える問題は、ほぼ出尽くしたものと考えております。昨年11月、庁舎問題検討委員会から中間報告をいただき、今月中には答申もいただく予定となっております。昨年末には議会にも「庁舎等検討特別委員会」が設置され、精力的にご検討いただけてまいりました。

いずれにしても、現庁舎の耐震上の問題、狭隘・分散化、設備の老朽化、ICT対応への限界等々を考えた場合、できるだけ早い時期に一定の結論を出し、庁舎問題解決への道筋を示すことが、私の今任期中の大きな役割の一つと認識しており、議員各位並びに市民の皆様の一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

新年度は、私の今任期における折返し点に当たります。時代の大きな変革の波に直面、翻弄され続けている市政運営で、なかなか思いどおりの政策実現ができません。しかし残り2か年、現在の改革の動きをしっかりと見据え、この波に飲み込まれない行政運営に、全力を傾注してまいりますので、皆様方のお更なるご理解・ご協力を重ねてお願い申し上げます。

以上をもちまして、私の発言を終わりとさせていただきます。

1994年度を初年度とし、20か年を計画期間とした現在の「町田市基本構想」は、その後の社会経済状況の大きな変化と社会全般にわたる制度変革により、計画策定時には予測できない時代を迎えています。そこで、計画期間の中間年に当たる2003年を区切り、構想全体の見直しを行います。これまでの計画は、町田市の目指すべき都市像を描き、これを實現するため行政全般にわたる施策を網羅し表現したものを「町田市基本計画」として示しています。しかし、社会経済の制度・仕組みが今なお激しく変動を続けている今日、将来を正確に予測することは至難と言えます。そこで、今回の見直しに当たっては、時代の変化に左右されず全ての市民が共有できる「まちづくりの考え方」を計画の理念とし、この理念に基づき実現すべき都市像を示しています。

そして、示された都市像を實現するために基本目標・重点目標を立てた構造となっています。従来この計画は施策展開型ですが、新し

国際感覚豊かなまちづくりを推進するため、両団体を統合し「財団法人町田市文化・国際交流財団」を設立します。財団化することにより、組織の信用力と活動の自由度が増し、運営に当たって財政基盤の安定化が期待されます。

一方、従来、図書予約や蔵書検索は、図書館のみで行われていたが、本年4月からはインターネットによるサービス提供を開始します。自宅や職場からも図書の予約・検索が可能となり、利用者の利便性が向上します。最後に、庁舎問題について申し上げます。

この問題は1990年以来、紆余曲折を辿りながら様々な議論され、現庁舎の抱える問題は、ほぼ出尽くしたものと考えております。昨年11月、庁舎問題検討委員会から中間報告をいただき、今月中には答申もいただく予定となっております。昨年末には議会にも「庁舎等検討特別委員会」が設置され、精力的にご検討いただけてまいりました。

いずれにしても、現庁舎の耐震上の問題、狭隘・分散化、設備の老朽化、ICT対応への限界等々を考えた場合、できるだけ早い時期に一定の結論を出し、庁舎問題解決への道筋を示すことが、私の今任期中の大きな役割の一つと認識しており、議員各位並びに市民の皆様の一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 行政全般の運営について

1994年度を初年度とし、20か年を計画期間とした現在の「町田市基本構想」は、その後の社会経済状況の大きな変化と社会全般にわたる制度変革により、計画策定時には予測できない時代を迎えています。そこで、計画期間の中間年に当たる2003年を区切り、構想全体の見直しを行います。これまでの計画は、町田市の目指すべき都市像を描き、これを實現するため行政全般にわたる施策を網羅し表現したものを「町田市基本計画」として示しています。しかし、社会経済の制度・仕組みが今なお激しく変動を続けている今日、将来を正確に予測することは至難と言えます。そこで、今回の見直しに当たっては、時代の変化に左右されず全ての市民が共有できる「まちづくりの考え方」を計画の理念とし、この理念に基づき実現すべき都市像を示しています。

そして、示された都市像を實現するために基本目標・重点目標を立てた構造となっています。従来この計画は施策展開型ですが、新し

国際感覚豊かなまちづくりを推進するため、両団体を統合し「財団法人町田市文化・国際交流財団」を設立します。財団化することにより、組織の信用力と活動の自由度が増し、運営に当たって財政基盤の安定化が期待されます。

一方、従来、図書予約や蔵書検索は、図書館のみで行われていたが、本年4月からはインターネットによるサービス提供を開始します。自宅や職場からも図書の予約・検索が可能となり、利用者の利便性が向上します。最後に、庁舎問題について申し上げます。

この問題は1990年以来、紆余曲折を辿りながら様々な議論され、現庁舎の抱える問題は、ほぼ出尽くしたものと考えております。昨年11月、庁舎問題検討委員会から中間報告をいただき、今月中には答申もいただく予定となっております。昨年末には議会にも「庁舎等検討特別委員会」が設置され、精力的にご検討いただけてまいりました。

## 誰もがどこでも学べる まちづくりを目指して

まず学校教育について申し述べます。最後の小学校統廃合校となる七国山小学校は、昨年4月に旧忠生第六小学校を仮校舎としてスタートしました。この間、本来の校舎となる忠生第七小学校の改修と学童保育クラブの新設工事を行い、本年4月に七国山小学校として開校します。これで小学校の統廃合は一応終了し、今後引き続き中学校の統廃合へ移る予定です。